

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

令和7年3月17日

北海道教育委員会教育長 様

北海道弟子屈高等学校長 高 野 龍 彦

次のとおり令和6年度（2024年度）の学校評価について報告します。

1. 学校教育目標
- ① 郷土を愛したくましく生きよう ② 自ら学ぶ意欲を持ちつづけよう
2. 目指す学校像（スクールミッション）
- 地域（唯一）の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成
3. 目指す生徒像
- ① 挑戦する生徒（郷土を愛するとともに、たくましい未来を切り拓く生徒）
- ② 自律する生徒（自ら学ぶ意欲を持ち、目標に向かって挑戦し続ける生徒）
- ③ 感化し合う生徒（自他の命を尊重し、互いに思いやり、高め合う生徒）
- 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・公開授業週間を設け、授業改善へ向けて実践を行った。 ・評価の見える化に重点を置いて改善しているが、その活用についてを各教員がどのようなイメージを持っているかの共有が成されていない。 ・公設塾の活用により生徒の学習時間が増加している。	・地学協働のさらなる推進を踏まえ学校関係者に向けた定期的な公開授業等の取組を望む。 ・公設民営塾との連携においてさらなる加速を望む。
改善方策	・授業改善のどこに焦点をあてるのかを定め、結果の共有について取り組みを進める。 ・授業の評価基準を提示するためのシラバスの活用について、検討課題とする。 ・授業外学習時間の増加や資格取得については、高校在学中に意義を理解させていく。 ・学校運営協議会ワーキンググループでの取り組みを継続しながら、地域の要望だけでなく協働・共創の観点から取り組みを進める。	
生徒指導（いじめ問題への対応を含む）	・職員会議後の情報共有が定着し、生徒情報を共有する上で有効な取り組みとなった。 ・教員がある程度意図的に役割を分配し、主体的な活動を促すことができた。 ・地域からの要請もあり、生徒の積極的な参加の姿勢が地域への貢献度に繋がった。 ・いじめの対処方針について、職員会議や随時情報共有を行う中で、全職員に周知した。 ・各学年による個人面談や年2回の全校面談を中心に生徒の状況把握に努めた。 ・PTA会議でのいじめ情報の伝達など、情報提供に努めた。	・生徒の町のイベントへの参加や運営に協力する姿勢に好感が持てる。 ・学校が生徒に身に付けさせたい資質・能力や学年ごとに設定した目標を具体的にどのように進化（深化）させていくべきか、地域と共通理解を図ると良い。 ・いじめの対応について地域や家庭との連携が欠かせないことから、情報発信に努めていただきたい。
改善方策	・今後もあらゆる機会をとおして、職員全体が共通認識のもと対応できる環境を整える。 ・今後も生徒会を中心に、学校づくりに生徒が関わる機会を設ける。 ・今後も生徒が地域社会に貢献できるよう、ワーキンググループや地学協働Co等を活用し積極的に取り組んでいく。 ・いじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応について全職員で再確認する。 ・いじめの早期発見のために、学年、教育相談委員会等との連携・仕組みを再確認すると同時に、職員間での情報共有を徹底する。 ・地域や家庭と連携しながらいじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む観点から、今後も外部に向けての情報提供に努める。	
進路指導	・個別の大学入試対策講習や面接指導等、個々の生徒に行き届いた指導ができた。 ・生徒が自己の将来の在り方生き方を自ら考えることのできる指導を随時行った。 ・キャリア教育の全体計画を作成し、その方針に沿って進めることができた。	・卒業後の相談窓口を設けるなど、学校運営協議会ワーキンググループでの取組が生徒の安心感につながっている。 ・生徒や保護者の願いも踏まえ、現実的な選択ができるよう、進路指導に係わる研鑽に努めていただきたい。
改善方策	・進路指導に関わり、キャリアノートを活用し、個々の生徒の特性に合わせ、3年間を見通した系統的な進路指導の実現を目指すとともに、商工会や同友会と連携を図り、企業の動向を把握するなど、教員の進路指導に対するスキルの向上に努める必要がある。 ・次年度以降の計画について、キャリア教育の全体計画に基づいた取組について、全教職員で共通理解を図るとともに、教科横断的に指導できる体制を早期に構築する必要がある。	

健康安全指導	概ね良好である。	将来的には、健康安全指導に係る幼小中との行事の一体化や関係機関との連携が必要である。
改善方策	- これまでの取り組みに加え、クラスルームでの情報提供も併せながら健康管理に努める。 - 第2回の防災訓練に体験的な活動を取り入れ、生徒の防災意識の向上を促した。今後も継続して実施する。 - 小中学校の特別支援コーディネーターと本校担当者が連携を図り積極的な情報交換を行うとともに、町の社会福祉部との協議の場を設ける必要がある。	
働き方改革	- 働き方に関する研修会を実施することができず、職員間で具体的な課題を共有することができなかった。 - 道の基本方針を再認識させ、周知する必要性がある。	働き方改革のための様々な取組は必要であるが、学校がやるべきことと外部に求めることを整理した上で、外部との連携を積極的に行うべきである。
改善方策	- 教育活動の目標達成度の視点から、働き方に関する研修会を実施し、スクラップ＆ビルド等の見直しを行う必要がある。 - 定期的に研修、指導を行い、各顧問に対して意識を徹底させ、完全実施に努める。	
信頼される学校づくり	- 学校・学年通信、学校HPなどを通じて、機会あるごとに情報を発信している。 - 検定試験や教科により連携を図っているが、学校全体としての連携が不足している。 - 地域との連携のもと教育活動を実践することができている。	- 情報発信においては、町の広報誌を活用しており、効果が高まっている。 - すばらしい教育活動を実践しているが、地域や小中学生にもっと「生徒の声」で発信できると、弟子屈高校の魅力がもっと伝わる。 - 中学校との連携をより強く持つべき。 - 弟子屈探究発表会を中学生に見せたい。
改善方策	- 今後はSNSも含め、こまめな情報発信に努める。 - 小中高連携会議への参加などをおして「地域の子どもは地域で育てる」意識を高めていく。 - 職員の超過勤務とならないように継続して、地域とともに教育活動を実践していく。	
組織運営	- 目指す生徒像について学校全体で共有を図ることができている。 - 昨年度に比べ、公設民営塾との連携は図られている。	- 改善に向けた取組に期待が持てる。 - 学年間での情報共有が適切に行われるよう、「いつ・どのように・誰が」を明確にする。 - 塾との連携をさらに強く持つことを望む。
改善方策	- 育成する生徒像を明確にし、グランドデザインをもとに教育活動に結びつける。 - 課題把握・共有の具体化を図り、分掌・学年と連携し早期解決に向け取り組む。 - ワーキンググループもあり、連携が深まっている。教員側がもっと塾に立ち寄るなどして情報共有を行うことも必要。	
教職員の資質向上	- 各教科において、日常的に授業改善に取り組む、授業力が向上している。 - 校外研修等に意欲的に参加する教員により、その成果が生徒に還元された。	適切な助言のため、外部から教職員の指導力が見学できる機会を設けていただきたい。
改善方策	- 今後も機会あるごとに服務規律の遵守について啓発していく。 - 課題把握・共有の具体化を図り、分掌・学年と連携し早期解決に向け取り組む。 - 公開授業週間を効果的に活用することによって、他教科からの情報収集を図る。 - 成果を教員間でも共有し、教員の生徒への指導力向上に努める。	
公表方法	学校ホームページ	

3 添付資料

- (1) 令和6年度 (2024年度) 学校自己評価表
- (2) 令和6年度 (2024年度) 学校評価 (学校関係者評価書)
- (3) 令和6年度 (2024年度) 保護者アンケート集計結果